

# 資本性ローンについて

最近では利用者も増えてきた資本性ローンですが、いくつか種類がございます。今回はその1つを抜粋しながら、資本性ローンを受けやすくする事業計画書の書き方にも言及していきます。

## 【新型コロナ対策資本性劣後ローン】※日本政策金融公庫の商品の場合

コロナウイルスの影響を受けた方が対象の融資で、運転資金でも設備資金でも利用可能。10億円まで借入でき（中小企業事業用の商品の場合）、返済期間は最長20年の期限一括返済。

### ◆メリット

- ・金融機関が財務評価をする際には、負債ではなく自己資本として視てくれる
- ・月々の元金返済がなくキャッシュフロー負担が減少する（期限一括返済、利息支払は有）
- ・無担保・無保証

### ◆デメリット

- ・融資から3年経過後は決算状況に応じて金利が上下する ※税引き後純利益0円以上で金利2.6%以上
- ・融資後の5年間は期限前返済不可
- ・自己資本として視てくれる金額は、返済までの残存期間が5年になった時点で年間20%ずつ減少

## 【上記の資本性ローンを利用する場合の事業計画書に関して】

ここでは認定支援機関の支援を受けて事業計画書を策定する事とします。その場合は、以下の点を踏まえて事業計画書を策定することをお勧めします。

### ① コロナの影響を具体的な数字で記載

コロナ前と比較してどの程度客数や契約数等が減り、売上に影響を及ぼしたか。月間や年間、何%減少したかも記載します。

### ② 今後の事業見通し（融資金をどう使用して、どう売上に結びつくのか）を記載

ここはとりあえずの運転資金にははいけません。コロナウイルスがあることを前提とした戦略であり、何故資金が必要なのかを具体的に説いていく必要があります。そして、今後どの程度契約数や売上が変わっていくのかをイメージしやすいようにプロセス毎に示していきます。

### ③ 今後、金融機関から融資の承諾を得ている場合は記載

金融機関からの協力が得られる等のプラスの情報は記載すべきです。

日本政策金融公庫は、この事業計画書で様々な判断を下します。中身が具体的であるほどイメージが湧きやすいので、印象が格段に良くなります。お客様の事を何も知らない政策公庫の担当者が、この事業計画書だけで資本性ローンを受ける経緯や受けた後の事業展望をイメージ出来るように策定する必要があります。

## 【お客様の事業・財務内容によっては非常にお勧めの商品です】

例えば、研究開発やITへの投資をするお客様においては、見込み売上がたつ前の必要資金が大きくなりがちです。通常融資では債務超過になりかねない場合や、資金調達的手段として増資を検討しているが持株比率は下げたくない方にはお勧めできます。

資本性ローンは内容が年々変化しております。資金繰りをより良くできるよう、最新の情報を金融機関から取り入れつつ、選択肢を増やしておくことをお勧めいたします。